（第３種郵便物認可）　総合　日刊

創刊90年

日刊建設工業新聞

THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

2018年（平成30年）9月4日火曜日　第19500号

発行所　日刊建設工業新聞社
〒105－0021　東京都港区東新橋２－２－10
電話03（3433）7151　https://www.decn.co.jp/
©日刊建設工業新聞社 2018
記事　電話03－3433－7161　mail-ed@decn.co.jp
購読　電話03－3433－7152　mail-sa@decn.co.jp
広告　電話03－3433－7154　eigyo@decn.co.jp

明治維新150年と治水の歴史

竹林征三

〈26〉大正の東京大津波から100年

河水が暴漲（ぼうちょう）して人間社会に被害を及ぼすことを防ぐのが治水である。豪雨により上流から押し寄せてくる洪水だけではない。河口より遡上（そじょう）してくる大津波（海嘯〈かいしょう〉）により下流のゼロメートル地帯などの低平地は過去に何度も大水害を被ってきた。

東北の大震災では三陸海岸の多くの湾奥の町に津波が押し寄せ大被害を受けた。これより下位に住んではいけないとの石碑が各所に造られてきた。

昨年はカスリーン台風70周年の陰に隠れて忘れられてしまったようであるが、東京大津波から100周年でもあった。

東京の下町にも、これより海側には住んではいけないという警鐘碑が2碑建立されている。木場の洲崎神社境内と江東区の平久橋西詰の二つの津波警告波除碑である。寛政3（1791）年の津波の時、これより海側の家居を取り壊し、永明地にしたのである。碑文は有名な国文学者の屋代弘賢が書いた。この2碑より海側は現在、市街地化して人口密集地となっている。

首都圏・近畿圏・中部圏は南に湾口が広がる湾奥に位置し、南西からやってくる台風が大潮時に当たれば大津波（高潮）となる。

1959（昭和34）年の犠牲者5098人（死者4697人、不明401人）を出した伊勢湾台風、1934（昭和9）年の犠牲者3036人（死者2702人、不明334人）を出した室戸台風、1950（昭和25）年の犠牲者539人（死者398人、不明141人）を出したジェーン台風、1961（昭和36）年の犠牲者202人（死者194人、不明8人）を出した第2室戸台風も海からの大津波による被害の方が大きかった。ここでは100年前の東京大津波を決して忘れてもらっては困るという意で詳しく見てみたい。

東京は明治以前には1677（延宝5）年、1680（延宝8）年、1791（寛政3）年、1856（安政3）年、1866（慶応2）年と5度の大津波被害の記録がある。1917（大正6）年9月25日の台風は関東地方を南西から北東に縦断し、高潮時と重なった。東京では952㍉、最大風速43㍍超を記録した。全国で死者・不明者1301人、全壊4308戸、流出2399戸、床上浸水19万4698戸に上り、その被害の中心が東京と京葉・浦安等であった。

京橋、深川、本所で著しい被害が発生。前後2回にわたり高潮が押し寄せ、月島、築地、洲崎で増水した。津波の高さは洲崎弁天で1・88㍍。浦安全町が水没、行徳塩田は完全に破壊し製塩の歴史を閉じた。木場の貯木場からの大量の村木が流出し、川を飛ぶがごとくさかのぼっていった。

東京の下町には築地波除稲荷神社、鉄砲洲波除稲荷神社など四つの波除神社がある。築地の原点は築地市場でも築地本願寺でもなく、築地波除稲荷神社である。築地波除稲荷神社の築地獅子祭は350年の歴史を伝えている日本最大の獅子頭で有名である。雲を従える龍と、風を従える虎、一声で万物を威伏（いふく）させる獅子による波除祈願である。

大津波は当時、「海嘯」と呼ばれることが多かった。満潮時に河川を遡行（そこう）して盛り上がる現象を潮津波とも言った。

東京を襲った大津波による犠牲者の供養塔など、次に記すよう各所に残る。大切な災害遺産である。

①持宝院（江東区北砂4丁目）に「大正六年海嘯横死者供養塔」（有形文化財）、「大正六年十月海嘯　横死者各霊供養塔」

②真蔵院（江戸川区東葛西4丁目）に波切り不動（重不動）

③江東区南砂2丁目に「砂村波除地蔵尊堂（由来碑）」大正6年

④平久小学校（江東区木場1丁目）の校門に波除土手石垣間置石

⑤海蔵寺（品川区南品川四丁目）に慶応元年「津波溺死者供養塔」首塚他横死者供養塔。

東京大津波100年後の2018（平成30）年3月31日、東京都は台風高潮浸水の想定を発表した。室戸台風クラスが上陸したと最悪事態を想定、沿岸地域を中心に約212平方㌔が浸水する、墨田、葛飾、江戸川の3区は9割以上が浸水、江東区で最大約10㍍に達するという。

〈参考文献・『物語日本の治水史』鹿島出版会〉

（富士常葉大学名誉教授、風土工学デザイン研究所会長）

＝週1回掲載